

# we+

センドグループ社内報

2026  
APRIL

# 4

NEW MEMBER  
新しい仲間を紹介

COMPANY MEETING  
経営と本気で向き合う場

コンサル体系化プロジェクト「ミライ」  
10年先の未来をつくる

## 新たな未来へ TOWARD A NEW FUTURE

CULTURE  
STYLEMTGのはじまり

最強クイズバトル  
センドグループクイズ王

VOL.11

# 社内報が 新しく生まれ変わりました

## RENEWAL

日頃より社内報をご覧いただき、そしてこれまで制作にご協力いただいた皆さま、本当にありがとうございます。

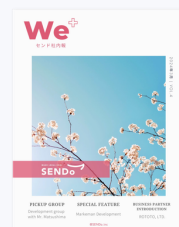
このたび、社内報をリニューアルいたしました。

今回のリニューアルには、「社内報が、もっと読者にとってワクワクする楽しみな存在になって欲しい」という想いが込められています。

社内には魅力的な人・挑戦・ストーリーがたくさんあります。それらをもっと見える化し、読むたびに元気や発見があるような、そんな社内報を制作したいと考え、デザイン・構成・企画内容を見直しました。

また、この社内報はこれまで多くのメンバーの皆さまに支えていただきながら続けてきました。特に大坪ママのインパクトは大きく、大坪ママへの感謝は一生忘れません！ありがとうございました。取材協力や企画への参加、ご意見・アイデアをくださった皆さまへ心より感謝いたします。

今後も、皆さまの声を取り入れながら、より良い社内報に育てていければと思います。ぜひ、新しくなった社内報をお楽しみください！



2023



2024



2024



2025



2026



## Table of contents

### 01 新メンバー紹介

- ・ポート所属 藤野さん
- ・ポート所属 竜円さん
- ・センドグループ所属 加藤さん

### 02 センドグループの目指す姿

### 03 第三次中期経営計画の進捗報告

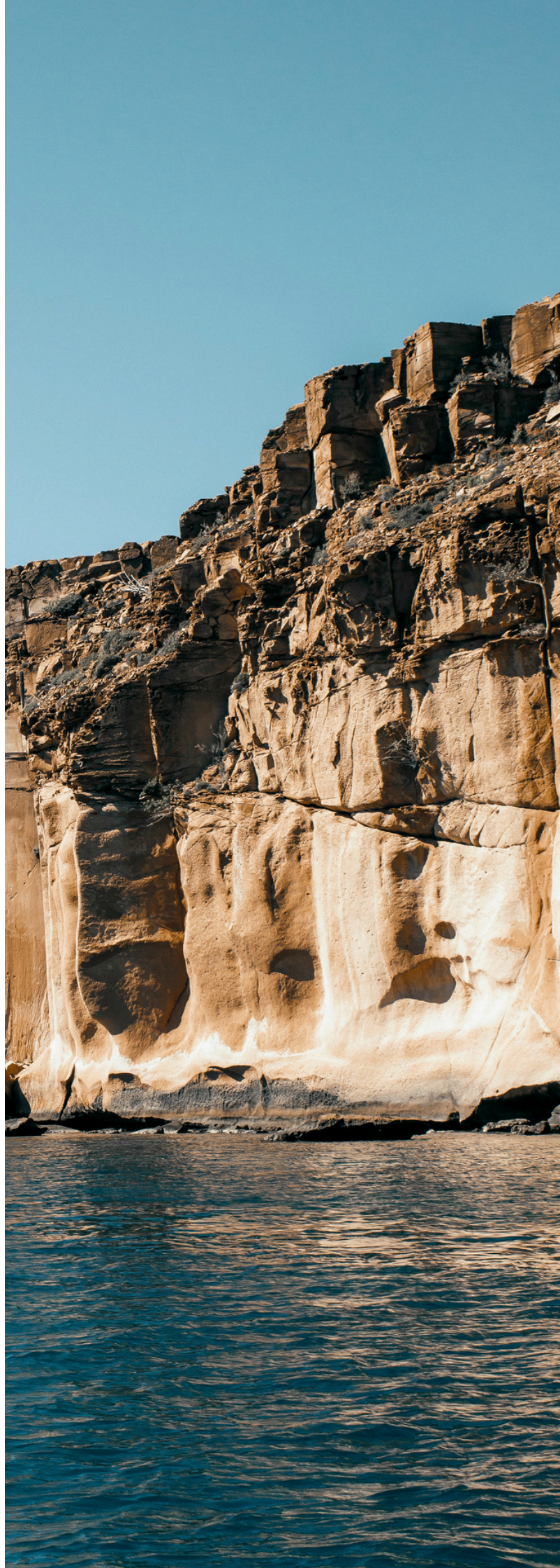
### 04 INTERVIEW～挑戦の裏側～

- ・コンサル体系化プロジェクト「ミライ」
- ・カンパニーミーティング
- ・事業責任者育成プログラム
- ・新クレド策定プロジェクト

### 05 カルチャーのはじまり

- ・STYLEMTG

### 06 センドグループクイズ王



# RINA FUJINO

## 藤野 莉奈

社内通称 ニラちゃん  
所属部署 ポート



### 経歴と現在のお仕事

東京都出身。大学卒業後、映像業界に携わりたいと思いCM制作会社に就職。1年ほど勤務したのち、ポートへ入社。現在はSNS運用を担当。

### 趣味

ダンス、雑貨、アニメ、YOUTUBEです！

## 📢 藤野さんに聞きたい 10 の質問



01

好きな漫画を教えてください！

ジヨジョとハイキュー!!です！

02

最近の興味関心について教えてください！

雑貨を見たり集めるのが最近のブームです！あとグミ好きが再燃して、新作を食べるのにハマっています！グミで仕事のモチベーション上げてます♪

03

色々勝手にたくさんしてきたエピソードもってください！笑

撮影に必要なものを忘れてしまうのは、日常茶飯事でして、、監督権限で経費でちょっと高い美味しいご飯を食べたり、撮影のお手伝いで眠すぎて全く役に立てないこともありました（笑）

04

遅延証をストックして活用できましたか？

何回も助けてもらいました、、！日付が書いていないものは、いつでも使えるので重宝していました（笑）  
（日付が書いてあると、その日にしか使えないので、、）

05

すごくしっかりした人だなという印象を持ったのですが、どうやったらそんなにしっかりできるのですか？

実際は全然そんなことなく、、頭の中ではいつも必死で、余裕が全然ないです、、T\_T  
強いて言うなら、長女なのがあるのかな〜と！

06

「流行や〜敏感でありたい」とありますが、情報収集のコツが知りたいです！

SNSをよく見えます！特にInstagramとXはおすすめに流れてくるので、気になったものを保存してサイトを見たり、よくPOPUPに行きます！

07

「求めているもの以上のものを提供する」を今の年齢で思っているのがすごい！！  
なぜ、そう思っているのでしょうか？

とんでもないです！そんなことを言うていただいて、嬉しいです^\_^  
もしがしたら、バレエやコンテをやっていた影響がもしもありません！  
皆さんが舞台を楽しみにしてくださっているので、その期待以上に作品を創り上げたいと思って踊っていました

08

これからやってみようと思っていることが何か教えてください！

絵を描いたり、イラレをマスターしたいです！前職で暇なときにイラレで作っていたのが楽しかったので、基礎的使用方法からまたやってみたいなと思っています！

09

絶対行こうと決めている場所があれば教えてください！

北海道には行きたいです！  
美味しい海鮮丼を食べたら満足です^\_^

10

プライベートで叶えたい夢のところに、絵やダンスとありますが、絵は描く方ですか？見る方ですか？

絵はどっちもです！描くのも好きで、いろいろなイラストレーターさんを探したり、見たりするのも好きです！描くのは全然遊び程度なのですごく下手ですが、、！



# TOMOMI RYUEN

**竜円 友美**

社内通称 りゅんさん  
所属部署 ポート

## 経歴と現在のお仕事

東京都出身。大学卒業後、製薬会社に就職し医薬情報担当（MR）として勤務。その後、もともと目指していた化粧品業界で7年間勤め、フリーランスに転身。2025年9月にポート株式会社にジョインし、広告運用者として活動しています。

## 趣味

趣味は筋トレとパン作り

## 📢 竜円さんに聞きたい 10 の質問



01

されたら嬉しい気遣いは何ですか？

前の話を覚えていて、その話をしてくれた時。

02

どういった経緯で筋トレを始めるようになったのですか？

食事制限しても痩せなくなって、このまま衰えてしまう・・・！と危機感を感じ始めました笑

03

最近面白かった「新しいこと」は何がありましたか？

動画編集で音声を「ビープ音」にする編集。

04

化粧品会社の研究職に憧れたきっかけなどあれば知りたいです！

メイクって魔法だと思っていて、人を一瞬できれいにして、自信をくれるもの。仕事にするなら、人を喜ばせる仕事がいいと思っていたので、そういう商材を扱いたいと思っていました！

05

仙台での思い出は何ですか？

冬はよくスノーボードに行きました！山形の蔵王は本当にパウダースノーでとても気持ちよかったです！あとセリ鍋に感動して、冬になったらよく食べに行きました！

06

お子さんがお母さんと接する時間が増えたことで、何かお子さんに変化などありましたか？

ご飯を食べた後に、今日は遊ぶ時間ある-？ってよく聞かれるようになりました笑

07

今までの社会人経験の中で、このチーム最高だった！があれば、どんなチームだったか、どうやってその関係を築き上げたか知りたいです！

化粧品OEM時代に大きいプロジェクトを担っていた時、研究職の人と力を合わせて会社を動かす多くの製品を完成させた時は、最高でした！なるべく自分ができることは自分でやる、込み入った話は対面でする、昭和戦法ですが関係構築には最適解だったと思います！

08

お酒のおつまみで一番好きなのは何ですか？

ぜんなん！！あったら必ず頼みます笑

09

1on1されて面白い人いました？

cinqueチームの皆さんは、一度もお会いしたことないのに、たぶん5回くらい会ったことがある！と思ってしまうくらい楽しくお話をさせていただきました！

10

今まで様々な企業を経験されたと思うのですが、何かセンドグループに取り入れたい会社ルール等ありますか？

難しいですね・・・結構ルールは整ってると思うので、強いて言うなら週数回在宅OKにして自由に在宅と出勤を自由に選択できると良いのではと思いました！

作成日：2026年3月

# REPORT

## SENDグループの 目指している姿

— 10期振り返りと11期に向けて —

**SEND**  
GROUP

SENDグループ株式会社  
代表取締役CEO

品川 純一

## SENDグループが目指している姿

### 01 センドグループが掲げる価値とは何か？

## MAKE LOCAL COOL

カッコいい地域を創っていくこと

これが私たちの仕事です

目の前の地域をカッコよくする 私達は、地域の可能性を信じています

### 02 なぜ「MAKE LOCAL COOL」が生まれたのか？

品川代表が会社を作った理由

「友達と楽しく生きていきたい」

笠井代表の創業の想い

「大手企業ではなく、気合の入った地域企業を支援したい」

これが、SENDグループの価値観の原点

僕らの大切なもの「家族」「仲間」「熱意」そして「地域」

### 03 「MAKE LOCAL COOL」を実現するためのVMV



私たちの挑戦はいま、どこまで進んでいるのか

## 第三次中期経営計画の進捗報告

### 中期経営計画 — 短期的な実行戦略

中期経営計画とは、ビジネスゴールを達成しその先にある実現したい会社像に近づくために、主に三カ年の重点取組事項を定めたものです。11期より第三次中期経営計画の最後の期に突入しました。



### 第三次中期経営計画のゴール

## 人財面、収益面の両面において 変化に強く継続性の高い会社作り

引き続き第三次中期経営計画でも定めています。

社会変化が激しい中でも、環境に左右されずに安定して成長できる会社になるということは、真の満足感を得るためには必要不可欠と考えています。

第一次中期経営計画では、会社の規模「拡大」をコンセプトにしてきました。

第二次中期経営計画では、拡大した事業を安定できるように「標準化・体系化」がコンセプトでした。

第三次中期経営計画のコンセプトは「収穫」

収穫とは、もっと力をつけて欲しいものを手にする期間にする。という意味が込められています。



## INTERVIEW | コンサル体系化プロジェクト「ミライ」

## SHAPING THE FUTURE

## センドグループの未来をつくる

## — 「ミライ」コンサル体系化プロジェクトの現在地

「これは、センドグループの“次の10年”をつくるプロジェクトです」その言葉通り、「ミライ」コンサル体系化プロジェクトは、単なるコンサル体系化のプロジェクトではありません。センドグループの未来そのものを形にする挑戦が、今、着実に進んでいます。今回はプロジェクトメンバーの皆さんに、活動内容やプロジェクトの思いをうかがいました。まずは、プロジェクトリーダーである品川さんにお話を聞きました。



品川 純一

Junichi Shinagawa

センドグループ代表取締役CEO  
プロジェクトリーダー

## プロジェクト「ミライ」とは

「ミライ」は、コンサルタントの育成モデルを構築するプロジェクトです。トップコンサルタントである松嶋の業務を分解し、育成カリキュラム、標準化されたツール、再現可能な業務フローとして体系化していく。

誰かの“暗黙知”に頼るのではなく、組織として価値を生み続ける仕組みをつくるのが目的です。

## なぜ今、「ミライ」なのか

育成モデルの構築は、これまでも何度もチャレンジされてきました。しかし、思うように前に進まなかったのも事実です。だからこそ、今回は自分自身が本気でコミットするという意思を込めてスタートしました。この育成モデルが完成すれば、フランチャイズ展開、SaaS、データビジネスといった次なる事業展開への道が拓けます。

そしてそれは、センドグループで働くメンバー一人ひとりの未来を、より豊かにすることにつながります。

**必ず成功させなくてはならない理由が、ここに 있습니다**

## 成功確率を最大化するための“設計”

今回の「ミライ」では、進め方そのものにも工夫があります。

- 毎週の「ミライ」の時間は最優先で確保
- スケジュールは被せない、という共通認識
- 専用の「ミライルーム／ミライスペース」で集中して作業時間と場所を設計することで、やるつもりではなく必ず進むプロジェクトとして動いています。

## 圧倒的なコミットメントが流れを変えた

このプロジェクトは、絶対に成功すると確信しています。その理由は、プロジェクトメンバーの存在でした。大坪さんと花野さんは、開始直後から何度もヒアリングを実施し、わずか1ヶ月でコンサル業務フローを可視化してくれました。“絶対に形にする”という強い意志を、二人から感じています。

## 実はその裏側では—

大坪さんから品川さんへの厳しいスケジュール管理も。

「いつまでにできる?」「3日あれば2フォーマットいけるよね?」妥協のないやり取りが、プロジェクトの推進力になっています。

経営と本気で向き合う場

# 人と事業を育てる 「カンパニーミーティング」



今回は、カンパニーミーティングについて運営者の品川さんと参加者の代表にインタビューを行いました。



## 「この場には、 あえて緊張感を持たせています」

そう語るのは、「カンパニーミーティング」の運営をされている品川さん。優しさや雰囲気づくりではなく、経営のリアルに真正面から向き合う場として設計されたこの会議は、参加者の思考と覚悟を確実に変えつつあります。

## カンパニーミーティングとは何か？

カンパニーミーティングは、事業単位（事業会社・ビジネスユニットなど）を一つの会社と見立て、経営を議論する会議です。一般的な企業で言えば、役員会にあたる位置づけです。扱うのは、現場の進捗確認だけではありません。事業のゴール、現状の課題、解決策、そして「結局、どう決断するのか」経営者としての視点と責任が、常に問われる場です。

## なぜ、この会議を始めたのか

目的は明確です。経営者を育成し、センドグループ全体のポートフォリオを推進すること。報告を受ける場ではなく、意思決定を担う人財を育てる場です。だからこそ、品川さんはこの会議に“甘さ”を持ち込みません。

## あえて「厳しさ」を選ぶ理由

正直に言えば、皆に好かれる“いい社長”でいたい気持ちはありません。それでも、そうしません。それが、経営の現実だからです。経営とは、責任ある決断の連続、正解のない問いへの選択、情よりも判断が求められる世界です。私自身も、情を排除し、客観的かつ冷静でいることを強く意識して、この場に臨んでいます。

## 「だからこそ、自分も本気です」

## 壁にぶつかり超えていくリーダーたち

ここからは参加者の代表にインタビューした内容をお届けします。

### ポート株式会社 中山さん

## 会議の前に“考える時間”が生まれた

短期・中期の課題を整理し、シートに落とし込む。そのプロセス自体が、思考のアップデートにつながっています。数か月単位で、課題感が変わっていく実感があります。



### cinqueブランドディレクター 阪本さん

## 視点が上がった。まだ途中ですが

自分のスキル不足を痛感しながらも、経営者視点を学び続けている最中です。裏話では、私の話が散らかっているときに、“パワーポイント2枚にまとめなさい”と言われて、次回ちゃんと2枚にまとめたのに、出し惜しみしたという悲しいお話もあります（笑）。



## INTERVIEW | 事業責任者育成プログラム

## 事業を託せる人財を、育てる。

センドグループでは、事業を牽引できる人財の育成を目的とした「事業責任者育成プログラム」を実施。このプログラムは、単なるスキル研修や勉強会ではありません。将来、センドグループのポートフォリオを支え、事業そのものを任せられる存在を育てるための極めて実践的で、覚悟を問われる育成プログラムです。今回は、主催者である品川さん（社内通称：じゅんさん）、そしてアドバイザーとして関わる笠井さん（社内通称：笠井さん）と中山さん（社内通称：しんじさん）に、このプログラムが生まれた背景や、込められた想いをうかがいました。

## なぜ「事業責任者育成プログラム」を始めたのか

品川 本プログラムの背景にあるのは、「事業を任せられる責任者を、意図的に育てなければならない」という強い危機感でした。プログラムの目的は、センドグループのポートフォリオを支える事業を牽引できる人財の育成を目指したプログラムです。目指しているのは、単なる事業担当者ではありません。仮に自分が退任したとしても、センドグループを存続・発展させ続けられる存在です。

次世代を担う経営者を育てたい。  
確かな「経営スキル」を持った人財を、  
数多く輩出することがゴールです。

トップがいなくなっても回る組織。これは理想論ではなく、本気で未来を考えた経営判断として、この事業責任者育成プログラムは立ち上がりました。

## あえて厳しい場をつくる理由

品川 事業責任者育成プログラムの特徴の一つが、場に張り詰めた緊張感があることです。経営者が見ている景色を少しでも共有して欲しい。そのためにあえて普段は見せないような厳格な態度で臨んでいます。参加者にとっては、決して楽な時間ではありません。実際、私自身もストレスは半端ないです。毎回午前中にやるのですが、その日の午後は抜け殻です。それでも、このスタイルを崩さない理由があります。事業責任者として事業を背負うということは、それだけの覚悟と負荷を伴います。その現実から目を逸らさせないためです。



品川 純一

Junichi Shinagawa

センドグループ代表取締役CEO  
主催者

## 本気度が成果物に表れ始めている

品川 プログラムを重ねる中で、確かな変化も生まれています。参加者の成果物の質が、徐々に上がってきています。本気度が伝わってくる点に、手応えを感じています。考え抜かれた事業構想。甘さを削ぎ落とそうとする姿勢。フィードバックを受け止め、更新し続ける姿。成果は、数字や言葉以上に、アウトプットの質として現れ始めているのです。

## 裏側にあった、忘れられない一言

品川 二期生のプログラムを開始する際に、しんじからもらった言葉がとても印象に残っています。しんじは一期生として参加し、その後ポートを分社化しました。そんな彼から、二期生の開始前に「自分にとっては変わるきっかけになった大切なプログラム。今回も、絶対に中途半端にしないほしい。」という言葉をかけてもらいました。この一言が、自分の覚悟を固めました。きつくて頑張りそうと思えたり、本当に感謝しています。誰かの人生やキャリアに、本気で向き合うからこそ、中途半端な場にはできない。事業責任者育成プログラムの厳しさは、期待の裏返しでもあります。

## 未来の事業を担う8名に聞く —

なぜ彼らはこの挑戦を選んだのか。どんな想いを胸に参加を決めたのか。今回は、参加者8名にインタビューを実施しました。それぞれの言葉から見てきたのは、立場や背景を超えて共通する覚悟と志でした。8名のリアルな声をお届けします。



### 共通していたのは、 「未来を自分で取りに行く」という姿勢

—なぜ、このプログラムに参加しようと思ったのですか？

**渡邊** 事業戦略を体系的に学び、それを実務に落とし込む。自分にとって、このプログラムは“学びを実装する場”でした。QBS（九州大学ビジネススクール）で理論やフレームワークを学びました。ただ、インプットで終わらせるのではなく、すぐに実務へ活かせる環境がほしいと考えていました。このプロジェクトは、その機会として大きな価値があると感じました。

**大坪** センドグループにおける事業責任者とは何か。それを知りたいと思いました。役職名ではなく、「この会社における意味」を理解したい。定義を知ることが、自分の現在地を知ることでもあります。その問いを持ったこと自体が、挑戦の第一歩でした。

**廣田** 責任者になるうえで必要とされる知識を学びたいと思い、参加しました。とてもシンプルですが、その裏には覚悟があります。いつかではなく、なる前から準備する。

**大田** より高みを目指したいからでございます！シンプルだからこそ、迷がありません。現状に満足せず、自ら成長機会に飛び込む。その挑戦心が、このプログラムを選ぶ理由でした。

**日高** 人生を通して叶えたいことを実現するための一つの手段として、事業責任者になるべきだと考えています。また、SENDグループの経営者である品川さんから直接学べる機会だと思い、参加を決めました。

**阪本** SENDグループのため、自分のため、そして何よりcinqueの拡大のためです。会社への想い、自身の成長、そして自らが関わる事業の未来。そのすべてが、この挑戦につながっています。

**高橋** 経営者になるうえで必要だと感じていたため、参加しました。“いつか”ではなく、“なるために今動く”。その覚悟が、この挑戦の出発点でした。

### 挑戦の入り口で感じていたこと

—参加前は、どんな期待や不安がありましたか？

**渡邊** 不安は特になく、期待の方が圧倒的に大きかったです。実際に、現在の役員陣が過去に同様のプログラムを経験し、今の成果につながっていることを知っていたため、「受けて損はない」「自分の将来に確実にプラスになる」と感じていました。

**大坪** 品川代表の鼻息が荒かったので、これは“第二次鼻息旋風なのではないか？”と、期待と不安でいっぱいでした。ワクワクと緊張が入り混じる、独特の空気感を感じていました。

**廣田** 何をどの程度するのか事前に分からない点は不安でした。未知だからその緊張。一方で、自分一人ではできない知識習得ができることに期待していました。

**大田** 特にありませんでした！

**日高** 今回、2回目の参加です。1回目は途中で心が折れて、オプザーブに移りました。だからこそ、今回も根を上げないか、不安はありました。1回目の時よりも成長した自分が、どこまで食らいつけるのか試してみたかった。正直期待していました。

**阪本** cinqueのために改めて事業計画を作り、みなさんに拡大を応援してもらえることへの期待がありました。一方で、現業にプラスして時間が取れるのか、パワーで乗り切れるのか、期待に応えられる事業計画が作れるのか、自分のスキル不足に愕然とするのではないかと、不安もありました。

**高橋** 自分と向き合う時間や、やりたいことを深掘りして事業にしていこうことに対して、不安より期待の方が大きかったです。自分自身と向き合うことへの覚悟。そして、それを事業へと昇華していこうことへの期待。このプログラムを“自分を変える機会”として捉えていました。



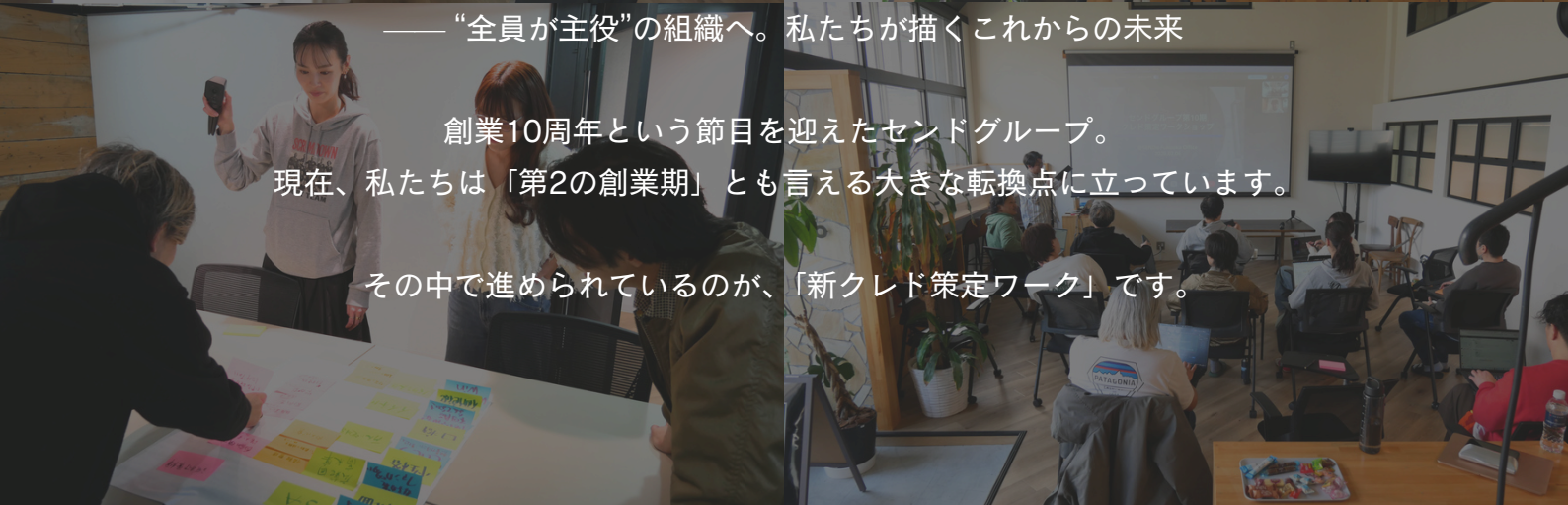
CONTENTS

# 新クレド策定ワーク

——“全員が主役”の組織へ。私たちが描くこれからの未来

創業10周年という節目を迎えたセンドグループ。  
現在、私たちは「第2の創業期」とも言える大きな転換点に立っています。

その中で進められているのが、「新クレド策定ワーク」です。



## INTERVIEW MEMBER

本プロジェクトの中心メンバーである品川さん、笠井さん、大坪さんにお話を伺い、クレド策定の背景や想い、そして描く未来について迫りました。



PROFILE

**品川 純一**

JUNICHI SHINAGAWA

センドグループ代表取締役 CEO



PROFILE

**笠井 聡成**

AKINARI KASAI

センド代表取締役



PROFILE

**大坪 康之**

YASUYUKI OTSUBO

センドグループ 人材育成担当

### なぜ今、新クレドを策定するのか

**品川** 創業10周年という節目を迎え、今まさに大きな転換点に立っていると感じています。変化の激しい時代の中で、過去の成功体験にとどまるのではなく、自らをアップデートし続ける必要がある。そのために目指しているのが、「創業者が引っ張る組織」から「全員が主役となって牽引する組織」への進化です。現在進めているカンパニー制の導入も、その変革の象徴的な取り組みのひとつです。こうした流れをさらに加速させ、メンバー一人ひとりが最大限に活躍できる状態をつくるために、行動指針であるクレドの刷新を決定しました。

### クレド策定のゴールは

**笠井** 皆の行動のギアが1段階上がり、より成果につながるようなクレドにしたい。そして、策定後にしっかり浸透することで、実際の行動に変化が起きることがゴールです。クレドは単なる言葉ではなく、「行動を変えるための指針」。その先にあるのは、組織全体の成果の向上です。

SENDO GROUP

# カルチャーのはじまり



今回は、「STYLEMTG」を特集。

あたり前になった

STYLEMTGのはじまりを振り返る

センドグループには、さまざまなカルチャーがあります。—————  
今回は、月に一度開催されている、全員参加型の会議「STYLE MTG」に注目しました。  
そのはじまりについて、品川さんと笠井さんのお二人にお話を聞きました。

## INTERVIEW

## STYLEMTGのはじまり

Interview by Ayumi Hiyama

## — STYLEMTGとは

STYLE MTGとは、センドグループで実施している全社参加型の会議です。自社のIPH（※1）を高めることを目的に、オープンな雰囲気の中でメンバー一人ひとりが意見を出し合い、会社やグループの取り組み、今後の方向性、そして個人のアクションを決めていく場となっています。

※1 （顧客への）Impact / （自社の）Performance / （メンバーの）Happiness の頭文字を取ったもの。以降、IPHと省略。



## PROFILE

品川 純一

JUNICHI SHINAGAWA

センドグループ代表取締役 CEO

## PROFILE

笠井 聡成

AKINARI KASAI

センド代表取締役

月に一度開催されている、全員参加型の会議「STYLE MTG」。

今では当たり前となったこの取り組みですが、現在の形に至るまでには、組織の成長と向き合う中で数多くの試行錯誤がありました。今回は、「STYLE MTG」がどのような背景で始まり、どんな思いを込めて続けられてきたのか。

センドグループ代表の品川さんと、センド代表の笠井さんにお話を聞きました。

**肥山** まず最初の質問です。STYLE MTGは、どのような目的で行われている取り組みなのでしょうか？

## STYLE MTGの目的と背景

**品川** 始めたきっかけは「組織づくり」です。STYLE MTGを始めたのは2022年1月頃です。当時のセンドグループ（4期～5期途中くらいまで）は組織というより「優秀なベテランが集まっている会社」という状態でした。

自分と笠井も現場に入っていて、「何かやろう」となったらベテランを中心に一気に進めていきます。だから、スピード感と勢いがありました。そしてその結果、5期の売上は前年比約450%と急成長しました。しかし、それだけ急激に成長すると当然ながら業務量はパンクします。そこで採用を強化し、未経験メンバーの採用を進めました。育成を前提にしていたのですが、当時の僕たちは育成も組織づくりも未熟で、業務を回しながら人を育てるということにうまく適応できませんでした。その結果、全員が目前の業務で手一杯になり、組織に歪みが出始めていました。



STYLEMTGの初期（2023年）



「このままだと組織が崩壊する。ちゃんと組織を作らないといけない」

そう強く感じ、笠井と話し合っ「今は組織づくりに向き合うべきだ」という結論になりました。ちょうどそのタイミングでエナジャイズさん（※1）と出会い、IPHという考え方を紹介してもらいました。今のセンドグループに必要なことは「これだ！」と感じ、エナジャイズさんのサポートを受けながら、STYLE MTGがスタートしました。

※1 株式会社ENERGIZE様



# SENDグループ クイズ王

知力の壁に挑め！

最強クイズバトル

★目指せ★

*No.1*

## 超難問クイズ

キミは解けるか？

真のSENDグループクイズ王は誰だ。

c i n q u e



精油の香り × 濃密泡

オーガニックシャンプー

c i n q u e

センドグループ株式会社／所在地：〒810-0014 福岡県福岡市中央区平尾3-17-10

URL：https://www.cinque.jp/



Instagram



